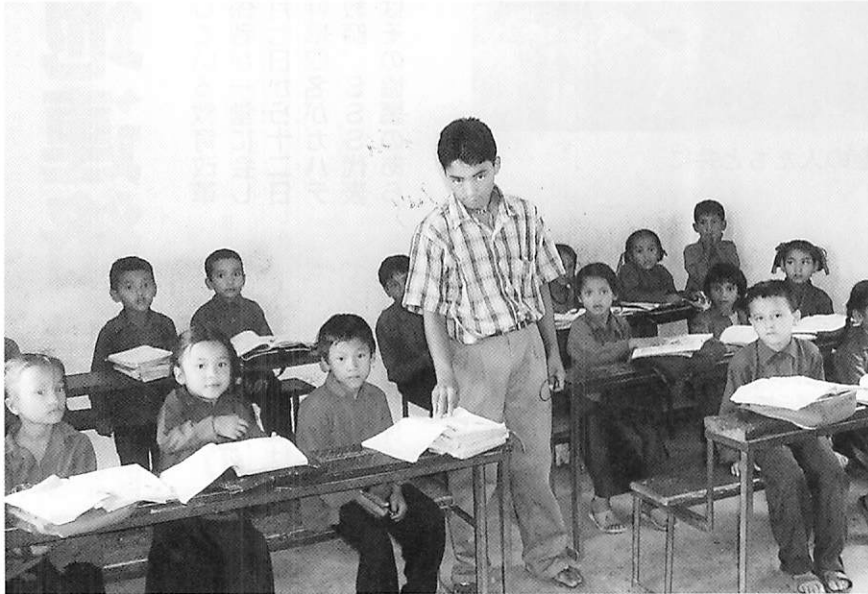




# ガハテ村通信

篠山ナマステ会 事務局 〒669-2341 篠山市郡家61-1 振替口座 00930—6—29629



元気に学ぶ子どもたち。これからの課題も多い。

## 篠山ナマステ会 10周年の成果と課題 今後の交流活動の あり方を探る

セティディビ小学校は二〇〇一年七月に完成し、その後の運営についても篠山ナマステ会が支援（主として教員給与等）を続けてきたが、同校学校運営委員会、SSS等の努力により、二〇〇八年六月には政府よりコミュニティスクールとして正式認可が下りた。

四名の教員給与はすべて公費で負担されることになったが、篠山ナマステ会では同校教育の質の向上のため、要請に基づき、一名分の教員給与を支援してきた。

二〇〇九年には児童数の増加に伴い、教員が一名増えて五名になったがこの全教員の給与についても公費で負担されることになった。

セ小の運営は軌道に乗っており、同校建設以来、九年にわたって続けられてきた「運営支援」も、当初の目的を達成することが出来たと判断して、運営支援については二〇〇九年度末をもって打ち切ること学校運営委員会、SSS及び教員等に伝え、了承を得た。

二〇〇九年度にセティディビ小学校に学んでいる児童は表の通りであるが、児童数が大幅に増加している。これは近隣のダリット（ヒンズーのカーストで最下層に位置付けられた人々）の子どもたちを受け入れてきたからで、セ小学校運営委員会がこれまで教育の機会に恵まれなかった人たちに門戸を開放したことの意義は極めて大きい。

2009年度セ小学校学年・男女別児童数

学年	女子	男子	合計
1	39	35	74
2	10	19	29
3	11	16	27
4	13	14	27
5	12	14	20
合計	85	98	183

セティディビ  
小学校

## 現地連絡会議に参加

今、ネパールで進められようとしている教育改革について、どう対応するのか、関係者が一堂に会して意見交換をするために、去る一月七日から十二日まで、篠山ナマステ会を代表して幹事四名がガハテ村を訪問して、学校運営委員会、教師、SSS代表等と連絡会議を行ってきた。以下はその協議のあらましである。



学校運営委員会の人たちと共に

## ネパールの初等教育改革

今まで小学校は一年から五年までであったものを八年制とする。そのために、コミュニティスクールである各小学校が第六学年から第八年を増やすか、他の学校と合併するかは、財源やその他の条件を勘案して各コミュニティに判断が委ねられている。

併せて第九、十二学年を高校教育とする。などで、これはセティディビ小学校の存在に関わる重大な改革である。この事について、七小学校運営委員会の意向や、付随する様々な条件について説明を受けた。

## 新たな課題

- 七万五千ルピー(約一〇万円)を担保金として政府に支払わなければならない。
  - 新たに三教室の増築と教室の備品の整備を、コミュニティの責任で実施しなければならない。
  - 第六、第八学年については生徒数が各学年三十名以上なければ、教員給与の公費負担は出来ない。
  - 必要な教員はコミュニティの責任で確保することだが、その用途は立っていない。
- これらの教育改革について、七小改革にかかる新たな問題を、どう解決するかが大きな課題となっている。
- このために先ず学校運営委員会、教師、SSSが、しっかり意見交換をして、改革の方向性について意志統一をし、諸課題の解決への道筋を明らかにしなければならぬ。

## 様々な課題についての意見交換

○ネパールでは私立の小学校に英語教育が大幅に採り入れられているが、七小でもこれを実現し、又コンピュータを活用する学習など、より魅力的な学校づくりに努力するべきである。これらのことは七小を希望する子どもたちの確保にもつながる。

○このたびの教育改革のような極めて重要なニュースについては、学校運営委員会や教員がもっと積極的に情報収集に努力するべきである。情報の共有が遅れたのではないか。もっと自らの問題として捉える姿勢が求められる。

○高校卒業後自らの進路を開くため、短大や大学で学ぼうとする者には支援(奨学金)などをお願い出来ないだろうか。・・・等々

## 連絡会議の成果

学校運営委員長からは篠山ナマステ会に対して、これまでの支援に感謝し、併せて今後の方向を共に考えて欲しい旨の挨拶があったが、七小の教育改革について篠山ナマステ会がどう協力できるかは、まず、七小の運営主体である現地の三者が協議を重ね、意思統一をして、今後の方向性を打ち出すことが大切である。それらの目標が定まれば、篠山ナマステ会としてどのような協力が出来るかを考えたい。それが本会の基本姿勢であると伝えた。

SSSからもこの教育改革にかかる取り組みは村づくりの重要課題として、まずガハテ村から発信してほしいとの要望が出されるなど、残された時間は多くはないが、篠山ナマステ会として今後どのような協力が出来るかを考えたい。

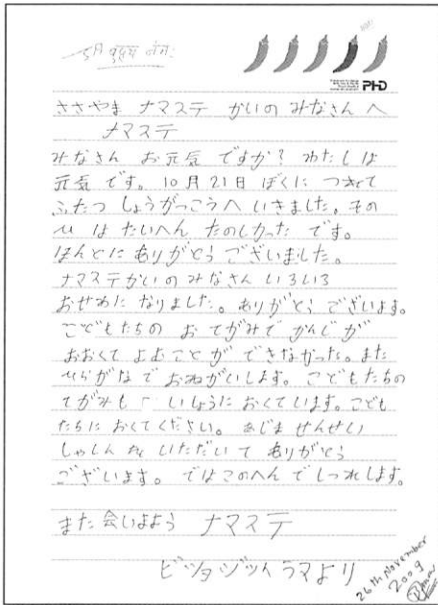
# PHD 研究生

## ビシヨ君の研修を振り返る

ガハテ村からの初めてのPHD研修生ビシヨ君は、持ち前の爽やかさと明るさを篠山に振りまいて、一年間の研修を無事終了し、故国ネパールへ帰っていった。

彼が日本で体験した「未知との遭遇」は、農業研修を通じて、今、日本の農業が抱えている様々な問題点についても、彼なりの鋭い観察をするなど、今後の彼の人生について大きな収穫であったし、私たちにとっては彼から多くのことを学ぶことが出来た。

### 帰国に際してのビシヨ君の礼状



篠山の雪景色にはしゃぐビシヨ君

### ビシヨさんの研修を受け入れて

篠山市健康課 山下 好子

平成22年2月1日から1週間、篠山市立丹南健康福祉センターにおいてビシヨさんが保健衛生の研修にいられました。赤ちゃん訪問から始まり、子どもの健診や相談日、メタボ健診やがん検診、デイサービスセンターの見学や高齢者の健康教室、また栄養や歯科、喫煙防止に関する講義など、健康づくり全般という内容の濃いものでした。

会った子育て中のお母さんからデイサービスのお年寄りまで、どんな年代の方に対しても流暢な日本語ですぐに仲良くなられ、赤ちゃんの抱っこや料理もお上手で母国での生活経験の豊かさを感じました。またビシヨさんの積極的に学ぶ姿勢と飲み込みの早さに驚き、きつと今回の研修の成果をガハテ村で発揮されること間違いなしと、とても頼もしく思いました。

研修生の母国での心温かな暮らしぶりを聞かせていただくと、ふるさと篠山を大切にしながら、なくてはならないと毎回の研修生受け入れで気づかされます。こちらのほうが勉強させていただき感謝しています。

### 篠山市での研修日程

- 6/24~7/8 中末農園、渡辺農園  
(有機農業、黒豆栽培等)
- 7/29~8/11 旬の市、岡本農機、渡辺農園  
(野菜出荷と販売、農機具整備、黒豆管理)
- 10/7~10/26 渡辺農園  
(農薬適正使用、黒枝豆収穫、荷造・販売)
- 2/1~2/8 丹南健康福祉センター  
(保健・衛生、乳幼児健康管理)

以上のほかに、

- ・みかん栽培・管理 (和歌山県広川町)
- ・協同組合研修 (コープ神戸)
- ・産廃処理場研修 (岡山県福谷エコクラブ)
- ・水質汚染・ゴミ問題研修 (熊本県水俣市等)
- ・学校教育施設・設備研修 (東日本の保・幼・小・中・高・大)

等で様々な研修を受けた。

### 若者の国際交流始まる！

## 篠山市生徒とセ小卒業生との文通

昨春秋、通信員のビシュニユマニ・ネパール氏より、「セ小卒業生で中等教育学校に学ぶ十数名の生徒が篠山市の中高校生との文通を希望している、それで同年代の生徒を紹介してほしい」旨の依頼があった。

これを受けて、鳳鳴高校、及び篠山・丹南の二中学校で文通に協力することを快く承諾いただいた。

連絡協議会では、三校より推薦いただいた二十数名の生徒名簿を現地校の先生に手渡した。併せて、文通の進め方についても意見交換を行い、相互に継続のために努力すること等を申し合わせた。

平成二十二年三月後半に入って、各学校にネパールからの便りが届き始めた。篠山ナマステ会としては、今後これらの文通の状況を見守りながら、できれば市内全部の高校、中学校にご協力いただいで、相互に学びあえる草の根交流を広げることができればと考えている。



ネパールから届いた手紙

### 前・通信員からの便り

アメリカ合衆国でコンピュータの勉強を続けているピカス・ビスタ氏から懐かしい便りが届いた。



篠山ナマステ会の皆さん、お元気で過ごされていることと思います。

私はまだ、自分の勉強を終わらせるためにテキサス州にいます。あと二年間でマスターを終了し、ネパールでより良い機会があるならば、国へ帰りたと思っています。篠山ナマステ会とセティデイビ小学校に関係する全てが良好であることを願っています。

私は、祖国と我がガハテ村からも離れており、寂しい思いがあります。そして、仲介者として貴会と仕事が出来ず、これも寂しく思っております。ここ合衆国から、貴会のために私が出来ることがありましたら、どうぞお知らせ下さい。

また、篠山ナマステ会の皆様どうぞ宜しくお願い下さい。

二〇一〇・二・二二 ビカス・ビスタ

## 地域活動の報告

### 第十四回ネパール市民講座・フォーラム

去る平成二十二年二月十一日、篠山市中央図書館において、「若者は未来を語る」というテーマで日本と外国の若者のフォーラムが開催された。

#### 提案者

- ビショ・ジット氏 (ネパール)
- ロザ・ノフェルマ氏 (インドネシア)
- ザー・ナウン氏 (ミャンマー)
- 酒井友香里氏 (日本)
- 福田聡菜氏 (日本)

#### ○研修生

日本で学んだ有機農業、保健衛生、商品価値の高いみかんの栽培等、私たちが研修の成果を自国で広めていく活動をしたい。

#### ○日本の若者

これまで行った外国の子どもたちの瞳の輝きが印象に残り、恵まれている(?) 故に課題の多い日本の子どもたちが、きらきら輝く生活ができるよう、先生になって頑張りたい。

今、世界では人権や環境問題等々解決しなければならぬ様々な課題がある。問題解決のためにも自分が学んでいることを生かし、積極的に提言していきたい。

○研修生 日本は万事に便利で進んでいて、良いと思う。自分たちは農業を研修してきたが、田や畑に若い人がいない(年寄りばかりだ)。どうしてなのか、不思議に思う。

○日本の農業の構造的問題を指摘した発言に、会場には何とも言えぬ笑いが起きた。熱い余韻を残した意義あるフォーラムでした。

### 平成二十二年度ネパールスタディツアーご案内

- ・DHDとの協催 八月下旬
- ・篠山ナマステ会主催 平成二十三年一月月上旬
- (問い合わせ 事務局五五二一〇二六〇)



意見交換する若者たち (左手前は司会者)